



## 「油症ダイオキシン研究診療センター」の設置による、油症の解明と根治療法開発の推進

### 概要

文部科学省の平成 20 年度概算予算要求において、九州大学が要求した「油症研究・診療センター」の設置による油症の解明及び根治療法開発の推進（期間 8 年、20 年度予算額 6,100 万円）が採択されました。

今回のセンター設置は油症の臨床研究と疫学研究が一体となって、油症の解明と根治療法の開発を推進する体制を整備し、油症の研究診療拠点を形成するものです。

### 背景

昭和 43 年に発生したカネミ食用油による食中毒問題は、平成 19 年 6 月に油症救済法（カネミ油症事件関係仮払金返還債権の免除に関する法律）が成立し、カネミ油症被害者救済を支援する超党派の議員連盟も結成しました。またマスメディアも油症患者救済と未認定者の見直し、ダイオキシン類の人体への影響解明などについて繰り返し取り上げ、カネミ油症の健康被害に対する社会的関心は高く、被害の実態解明や治療法の開発を求める声は一層高まっています。

油症は経口でダイオキシン類を摂取したことで発生した世界でも稀な症例であり、ダイオキシン類が人体にどのような影響を及ぼすかを解明しその治療法を開発することは、日本ばかりでなく世界からも注目されています。

### センターの組織と活動内容

九州大学病院に活動拠点となる「油症ダイオキシン研究診療センター」を設置。センター長、実質的なセンターの総括を担う副センター長以下 5 人の専任教員を配し、うち二人は長崎県と五島担当として長崎大学病院と五島の病院に配置します。そのほか看護師 2 人、メディカルソーシャルワーカー 1 人を配し、臨床試験のサポートや患者さんの相談、精神的な緩和ケアと生活指導を行います。

センター設置によって患者さん中心の診療体制を構築するとともに、従来、油症研究班で継続的に行っている臨床研究/疫学研究等にも積極的に参画し、ダイオキシン類の体外への排出等根治療法の開発等の研究を推進します。

### 効果

患者さんの苦痛を除去するだけでなく、ダイオキシン類の毒性メカニズムと治療法を確立することは人類全体にとって非常に有意義なことです。

また、九州大学病院が中心になって根治療法の開発を推進することは、高度な診療と健康回復を視野に入れた将来への安心感を、患者さんと社会に提供することができます。

### 今後の展開

現在、既の実施している漢方薬による症状緩和の臨床試験と、ダイオキシンの体外排泄効果が期待できるとされるコレバインの臨床試験を継続実施してデータ解析を行い、その臨床効果を評価します。

また、同時にダイオキシン類が人体に及ぼす影響（骨密度、皮膚症状など）を疫学調査により解明します。さらに、漢方薬やコレバインの臨床試験の結果を踏まえ、基礎医学分野とも連携をとりながら、その他の根治療法の研究開発を進めていきます。

### 【お問い合わせ】

九州大学大学院医学研究院 古江 増隆

TEL : 092-642-5581

FAX : 092-642-5600

E-mail : [furue@dermatol.med.kyushu-u.ac.jp](mailto:furue@dermatol.med.kyushu-u.ac.jp)